

アフターコロナにむけた ワークプレイス戦略

コロナショックが変える 働き方と働く場

Workplace Strategy toward After COVID-19

The Future of Workstyle and Workplace

ver. 1.0

WORK MILL

projected by

okamura

Message from Okamura

アフターコロナの働き方と働く場を 皆さんと共につくるために

2020年5月11日

私たちが今まで経験したことのない状況が止まりません。これにより、外出や出勤の自粛が求められ、多くのオフィスワーカーが在宅ワークを余儀なくされています。最初は在宅で仕事なんてできるのかと思っていた人も、取り組んでみると思ったより仕事ができる、効率がよいなどと思うことが多いかもしれません。しかしその一方で、オフィスでおきることの重要性を改めて感じている部分もあるのではないのでしょうか。この先オフィスはどうなっていくのでしょうか。今、働き方・働く場が大きな転換期を迎えているのだと思っています。

私たちオカムラは長い間皆さんのオフィス作りをお手伝いしてきました。その経験を活かし、危機に負けないレジリエントな社会を作るために、これからの“はたらく”がどうなっていくのか、継続的に研究し、それを発信し、皆さんの役に立つ製品・場所・体験をつくっていきたいと考えています。その第一歩としてこのレポートを公開し、困難に立ち向かう皆さんと一緒にこれからの“はたらく”を追い求めていきます。ぜひこれをきっかけに私たちと一緒にこれからのオフィスのあり方を考えていきましょう。

株式会社オカムラ
働き方コンサルティング事業部

Table of Contents

目次

Message from Okamura

01.

How COVID-19 will Change Our Workstyle and Workplace

新型コロナウイルス感染症は我々の働き方と働く場をどう変えていくのか

02.

How We Respond: Workplace Strategy and COVID-19

新型コロナウイルス感染症に立ち向かうワークプレイス戦略

03.

Workplace Strategy for Emergency COVID-19

エマージェンシーコロナのワークプレイス戦略

04.

Workplace Strategy for With COVID-19

ウィズコロナのワークプレイス戦略

05.

Workplace Strategy for After COVID-19

アフターコロナのワークプレイス戦略

06.

Design Strategies for Safe and Secure Workplaces

安全、安心なワークプレイスのためのデザイン

06-1.

Design for Safe Distance

距離・位置を保つ

06-2.

Design for Separation

仕切る

06-3.

Design for Contactless

接触を減らす

06-4.

Design for Cleanness

清潔を保つ

06-5.

Design for Operation

運用・ルールの対策

07.

Our Commitment

オカムラが発信する新型コロナウイルス感染症・在宅ワーク関連情報

08.

Upcoming

お知らせ

Connect with Us

01. How COVID-19 will Change Our Workstyle and Workplace

新型コロナウイルス感染症は我々の働き方と働く場をどう変えていくのか

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）は、我々の生活と仕事を大きく変えつつあります。2020年3月11日、世界保健機関（WHO）が「パンデミック」と発表して以来、世界中で外出禁止や自粛、休校や店舗閉鎖などが続いています。一部報道では、4月3日の時点、世界で外出禁止・自粛をしている人は39億人に到達したとされており、実に、世界人口の半数が強制的に在宅生活を送っています。日本の新型コロナ対策も長期化しており、4月7日に出された緊急事態宣言は5月31日まで延長され、合計55日間となりました。強制的な在宅勤務がこのような長期に及ぶと誰が予想したのでしょうか？

より柔軟な働き方への転換点

長期化するテレワーク（在宅勤務*）によって働き方・働く場に対する認識が変わりつつあるようです。2017年のテレワーク導入率は13.9%（2017年、総務省情報通信白書）、検討中の企業を含んでも18.2%（2017年、総務省通信利用動向調査報告書）であり、政府目標の2020年導入率34.5%（2017年、世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画）とは大きく乖離した状況でした。ところが、今回の経験で、

多くの企業が新型コロナ収束後のテレワークの継続、新規模導入を検討し始めました。同様に、働く人たちの間にも、事前に想像していたより問題なく取り組んでいると感じている人も多いようです。社会全体が取り組んだことで、対面でのコミュニケーションを重要視する社会規範にも変化が生じています。

一方、この認識の大転換に社会インフラや制度はまだ追いつけていません。本来、テレワークは「効率よく、健康に働くための手段のひとつ」ですが、今回は会社に行ってはいけない、また家族も外出自粛や、公立学校の休校措置などがある中での実施であり、効率や健康などを考慮されない中での実施となりました。在宅で働く環境が整っていない人も多くいるようで、健康面・精神面が心配されます。新型コロナ収束後の社会が、より柔軟な働き方を実装し、働く人の創造性と幸福度を向上させていくためには、ハードとソフトの環境整備をより充実させなければいけません。

*ここではテレワーク=在宅勤務とするが、本来はモバイルワーク、社内他拠点利用など含む



02. How We Respond: Workplace Strategy and COVID-19

新型コロナウイルス感染症に立ち向かうワークプレイス戦略

新型コロナの流行がどのタイミングで収束するか、あるいはまた拡大するのかなどは予測が難しい状況です。そんな中でどうやって通常の業務に戻していけるのか考えてみたいと思います。オカムラでは、新型コロナに関するフェーズを3つに分けています。

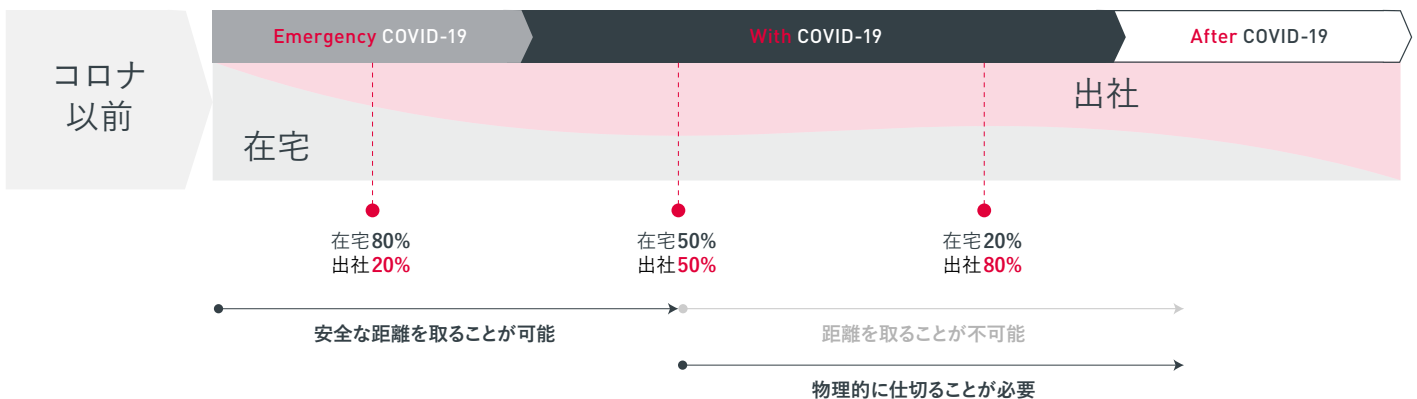
オカムラが考える3つのフェーズ



下記のダイアグラムは各フェーズにおける在宅勤務と出勤の割合を示し、段階ごとに取り得る戦略と、それらをどのようにシフトさせていくかを示しています。

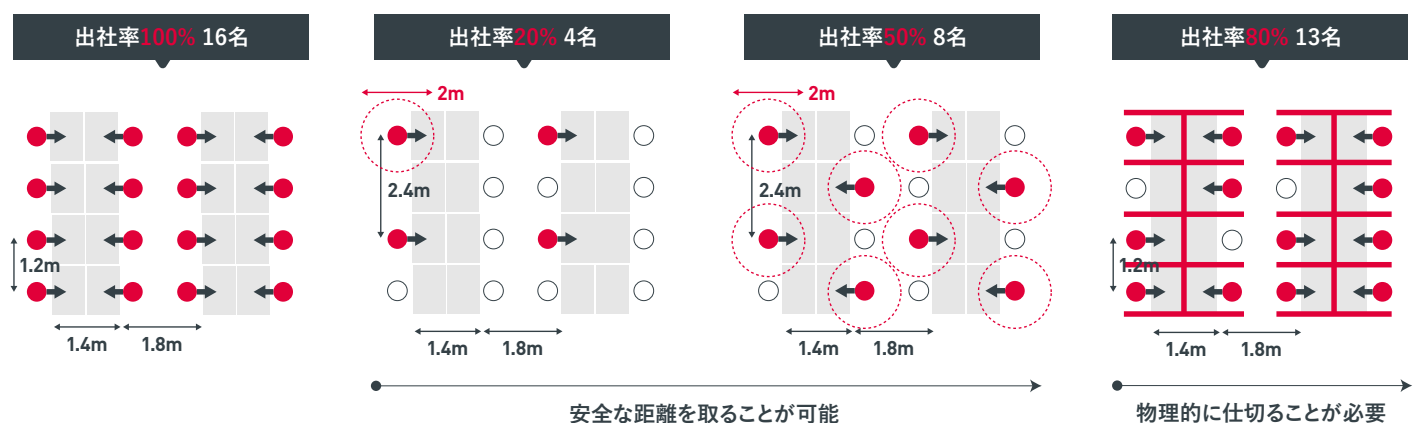
エマージェンシーコロナでは感染拡大を防ぐために在宅勤務がワークプレイス戦略の中心となります。ウイズコロナでは段階的の出勤が

始まることが予想されます。出勤人数を管理して安全な距離を保ち、だが、いつ、どの場所を使ったかを把握して清潔を維持することが、働く場所の安全・安心にとって重要です。出勤率が50%を超えるようになると、安全な距離をとることができなくなるため物理的な仕切りの導入検討も必要になります。



出勤人数とソーシャルディスタンス

※日本での一般的なデスク配置 (1200W 幅)



03. Workplace Strategy for Emergency Covid-19

エマージェンシーコロナのワークプレイス戦略



在宅での働く環境を充実させる

エマージェンシーコロナのフェーズでは外出自粛要請により、多くの人が在宅勤務によるテレワークを余儀なくされています。企業や職種により、やむなく出社する場合はこの段階では出社人数も限定され、ソーシャルディスタンスも比較的容易に確保できることが予想されます。よってこのフェーズでは在宅でのテレワーク環境をできるかぎり整えることでより効率的に、より健康に働くことができます。今後も続く予想される在宅での働く環境を今一度考えてみましょう。

在宅勤務環境で気を付けるべきポイント

1. 好ましい姿勢を意識して座りましょう

- 座る姿勢は、背中カーブをなくし、自然な姿勢（立ち姿勢：背骨は首と腰が前方にカーブするS字形を描く）が崩れがち
- 座面の奥まで腰かけ、背もたれに腰や背中をつけ、身体を安定させて座る
- 頭は身体の真上で前方を向く

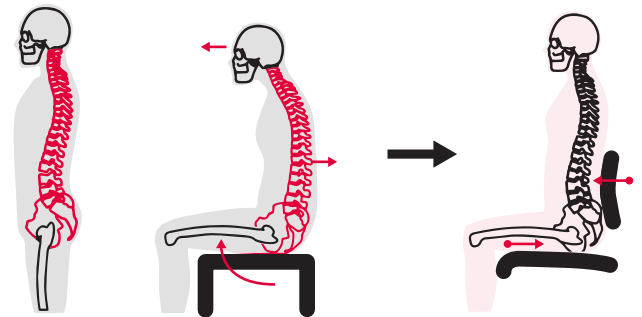
2. 仕事をする環境を、自ら設定しましょう

- 椅子・机：姿勢がねじれないよう、机の上や足元を整理、パソコン画面を正面に向かって座る
- 照明：天気や時間で変化するので、まめに調節
- 空調：たまには空気の入換えをしてリフレッシュ

3. 休憩するのも仕事の内、アクティブ・レスト*でリフレッシュ

- 同じ姿勢を長時間続けるのは良くないため、時々姿勢を変える
- 歩きながら考えたり、立った作業をするのもおすすめ
- 仕事モードのON/OFFを切り替え、軽い運動を生活リズムに取り入れる

*アクティブ・レスト「積極的休養」とも呼ばれる疲労回復法のこと。ストレッチなど軽く体を動かすことで血流の改善を図り、疲労物質の排出を促す。

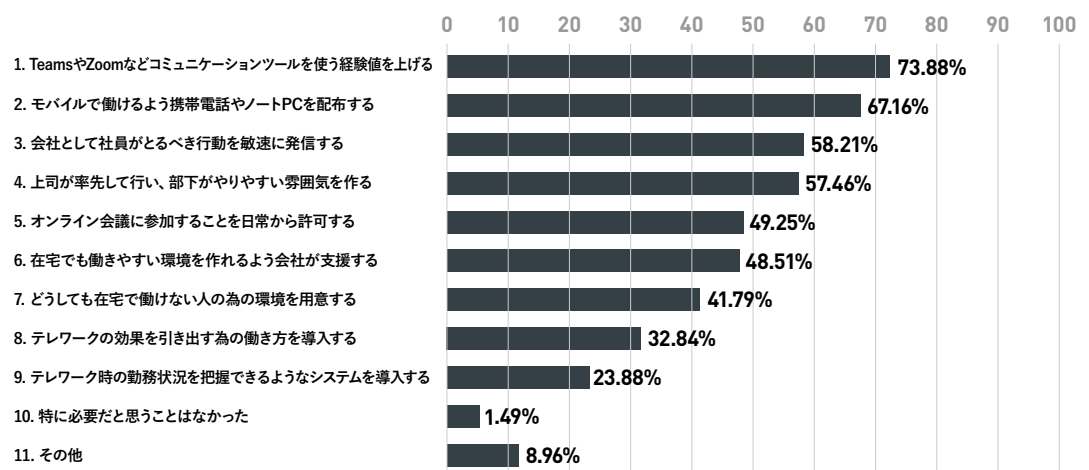


座面の奥まで腰かけ、背もたれに十分にあって、身体を安定させましょう。その時の頭の位置は、体の真上になるように。

在宅勤務環境充実に向けた課題

右は、2020年4月5日から4月8日に、デザイナーやリサーチャー、事務職など162名のオカムラ社員を対象に行われたアンケート結果。オンライン会議の日常的な利用やテレワークするための機器の充実などがあがりました。

今回のような事態に備えて行っておくべきこと *複数回答



04. Workplace Strategy for With Covid-19

ウイズコロナのワークプレイス戦略



在宅勤務と段階的出社を上手く組み合わせる

ウイズコロナのフェーズでは緊急事態宣言が解除され、在宅勤務に加え、状況に応じながら段階的に通常の状態に戻っていくことが想定されます。社員の皆さんが会社に戻ってきて安心して働くことのできる安全な環境とは何か、を考えておく必要があります。

ウイズコロナに効果的な手法「ホテリング」

多数の人が滞在・接触するオフィスの中では、安全に利用できる場所や誰がどこを利用したか、などが特定できることが重要です。従来型の固定席の運用であれば適切な距離を確保することで解決できますが、近年多くの企業で採用されている自席を持たず座席を共有するABWやフリーアドレスの運用では多くの人が複数の座席を利用するため感染リスクも高まります。このような場合は座席を事前に予約できるようにして運用するホテリングにより、利用者の特定や利用場所の限定が可能になります。



Hotelling ホテリング

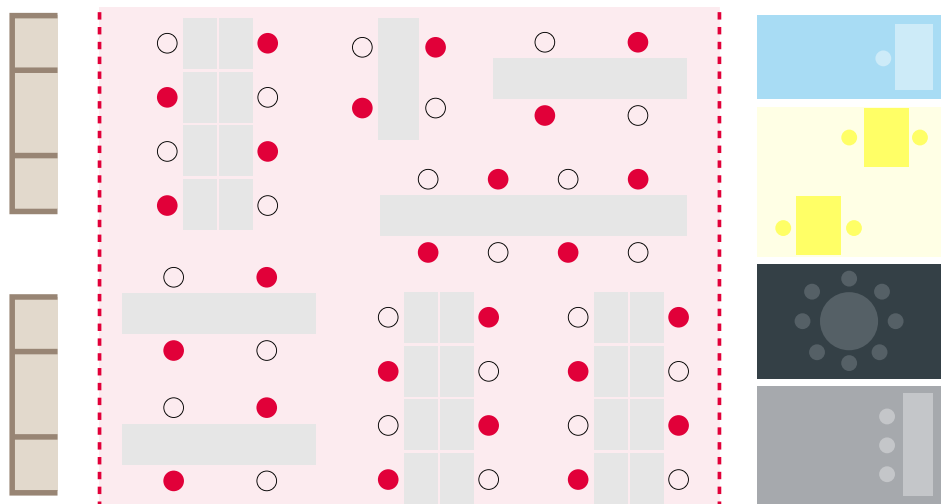
複数人が共有席を予約制で使う働き方

ソーシャルディスタンス(2m)(2020年、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」)を確保したワークポイント*を指定し、出社が必要な人が予約して利用。「だれが」「いつ」「どこで」仕事をしたのかを明確にすることが安全・安心の第一歩。

*オカムラではオフィスで働ける座席を単に座席数ではなく、ワークポイントとしてカウントしています。

利用エリアとワークポイントの設定

利用できるエリアを [] に限定し、その中で、利用できる共用席(●)を、適切な距離・位置を保って指定します。さらに、その席を予約制にすることで、利用状況の把握や利用履歴を残すことができます。



05. Workplace Strategy for After Covid-19

アフターコロナのワークプレイス戦略



アフターコロナでは、より「分散化」する働く場とより「多様化」するワーカーたちの働き方をいかにマネジメントするかが重要になります。米国などでは給与が多少さがってでも週数回の在宅勤務を希望する人がいるなど、自分にあった働き方を求める傾向があり、企業にとって優秀な人材を確保する上でも柔軟性のある労働環境を用意することが重要といわれています。今回の強制的な在宅勤務を経験した日本のワーカーもこれまでにない勤務の組み合わせを望むようになるかもしれません。

リモートネイティブの出現

2020年の新入社員は入社式・新人研修などすべてオンラインで行っており、リモートネイティブと言えます。デジタルネイティブでもあるこの世代の人たちが求める働き方は、前世代と大きく変わることが予想されます。

働く場のライトサイジング

センターオフィス機能の再定義。テレワークが一般的になると、センターオフィスに求められる機能は企業によって多様化するでしょう。リモートワーク時々オフィスが一般的になり、より共創がセンターオフィスに求められる機能になるかもしれません。センターオフィスのダウンサイジングではなくワークプレイスのライトサイジング (Right Sizing) を考えなければいけません。

FM から WM へ

ファシリティマネジメント (FM) からワークプレイスマネジメント (WM) へのシフト。オフィスのファシリティマネジメントだけではなく、地理的、また時間的に分散するワークプレイスの管理が企業にとって必要になります。

ワークエクスペリエンスのデザイン

分散するワークプレイスにおいて、ワーカーが効率よく健康的に働くために、個々の場所、また場所間での体験 (ワークエクスペリエンス) の充実が求められるようになります。ワークプレイスだけでなく、ワークエクスペリエンスのデザインが重要になります。

テレワークツール・環境の強化

健康に働くための椅子や机がワーカーの権利であるように、テレワークで職務を遂行する上で必要となるツールへのアクセスやトレーニング、また環境の提供が必要になります。



06. Design Strategies For Safe and Secure Workplaces

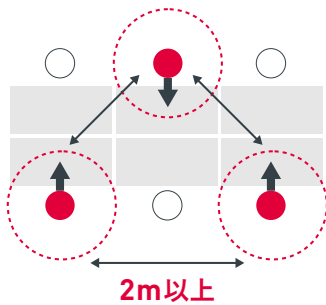
安全・安心なワークプレイスのためのデザイン



06-1. Design for Safe Distance

距離・位置を保つ

ソーシャルディスタンス(2m)を確保できるようにレイアウトや座る位置や向きに配慮して密集・密接を防ぐ



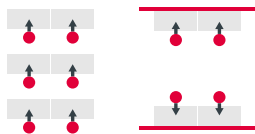
人との距離を確保する

座席を間引いて物理的に隣席と距離をとる ソーシャルディスタンス(2m以上)

席数減少の対応として在宅勤務、シフト勤務などの勤務形態の併用や、外部施設利用など、勤務場所の分散対応で出社人数の抑制が必要となる。

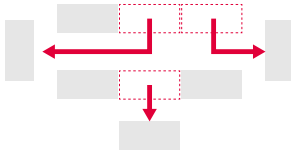
確実に距離をとるための工夫

座れない座席に関しては椅子を撤去する。または、サイン表示により、常に注意喚起を促す。



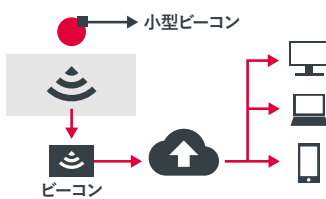
座る向きを変える

スペースに余裕がある場合は机の向きを工夫してなるべく対面を避けるようなレイアウト配置をおこなう(同一方向や背面方向など)。



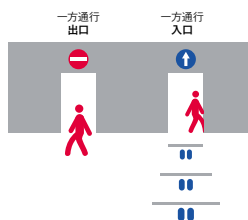
可動式家具の採用

可動式の机は利用者自らで向きやレイアウトを簡単に可変でき、周囲との距離を調節したり、確保したりできる。日々の状況変化にも柔軟に対応できる。



位置情報検知システムの導入・活用

オフィス内のワーカー位置情報検知システムにより、在席状況をリアルタイムで可視化して利用者が共有できるので特定の場所の密集、密接を防止して利用者の分散化、均等化がはかれる。



主導線の工夫

通路での対面や接触の場面をなるべく減らすために、オフィスの出入口の入退出の方向やメイン通路の歩く方向を一方通行として運用する。*非常時の避難経路や避難距離の確保には十分に配慮する。

人と人が交差する交差点や人が滞留しがちな行き止まりの場所をなるべくつくらない。

通路と執務席エリアをカーベットの貼り分けなどで視覚的に分離して接触や接近を抑制する。

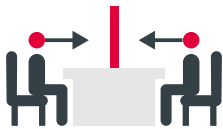
共用スペースは分散配置

時間や状況により、密集や密接が発生しやすい共用スペースは利用者が集中しないように、執務室内の数か所に分散して配置することが望ましい。※コピーコーナー、給茶コーナー、個人ロッカー等

06-2. Design for Separation 仕切る

人との距離や向きで対処できない場合はパネルなどで物理的に隔てることにより、感染リスクを抑制する

高さ450mm以上



デスクトップパネルの設置

人との距離や向きで対処できない場合はパネルやパーティションなどを設置して前面や側面を物理的に隔てることにより、飛沫感染リスクを抑制する。※推奨 H450mm 以上



スタンドパネルの設置

側面や背面の仕切りとして簡単に移動、設置ができるスタンド式のパネル。スタンド式のホワイトボードでも代用可能。



ヘッドパネルの設置

椅子に追加して取り付けるだけで顔の周囲をカバーできて周囲の視線や音もある程度さえぎることができる。



集中ブースの設置

個人作業を個室感覚で安心して行うことのできる集中ブース。電話やWEB会議時の飛沫感染を防止するとともに防音、遮音効果も期待できる。※使用前後は十分な清掃、換気が必要



06-3. Design for Contactless 接触を減らす

ハンズフリー技術の採用やデジタル化等により、なるべく手指で触る場所やものを減らす



顔認証入退管理システム

入退室管理に顔認証システムを採用することによりどこにも接触することなく部屋の出入りが可能になる。



出入口には自動ドア

部屋の出入りの際にドアノブやハンドルに触れる必要がないため、感染リスクが抑制される。



ペーパーレスの徹底

紙の書類をできるだけなくして、共用収納庫や共用書類への接触を抑制する。閲覧や共用書籍はデータ化する。



個別ロッカー

衣服やカバン、靴など、各自の物品に他人が極力触れないよう、個人ごとの個別ロッカーを設置する。

06-4. Design for Cleanness

清潔を保つ

頻度や範囲の見直しを含め清掃を徹底することが重要。空調環境や家具、内装などの素材などにも配慮が必要

清掃の徹底

清掃頻度を高め、周囲を常に清潔な状態に保つ。

社員が行う場合

清浄備品や清掃用具をすぐに利用できるように身近でアクセスしやすい場所に十分な量を用意しておく。

各席にゴミ箱を設置している場合は廃止して共用のゴミ箱に集約する。ウイルスの感染拡大予防のためゴミ箱は蓋付きのものが望ましい。

外部委託している場合

清掃の契約内容を確認して清掃の回数や範囲を拡大するなどの見直しを検討する。

不特定多数が触れる機会の多い場所：ドアハンドル、固定電話、デスク天板、イスの肘、共用PCキーボード等

機能性素材の採用

抗菌、滅菌などの機能性建材を内装や家具の材料として積極的に使用する。

家具天板

抗ウイルス、抗菌機能付きのメラミン化粧板

椅子張地

アルコール消毒や次亜塩素酸ナトリウム溶液によるメンテナンスに優れた張地

内装仕上げ

抗菌機能付きの塗料や壁クロス、抗ウイルス床シート材等

その他

光触媒による抗ウイルス性能のあるドアハンドル等

空気浄化への配慮

「換気の悪い密閉空間」をつくらないためにビル管理法に基づく必要換気量（毎時 30 m³ / 1人）を満たすように配慮する。

換気の徹底

窓が開放可能な建物の場合は毎時2回以上窓を全開にして換気する。*

空気の流れを作るため、複数の窓がある場合、二方向の窓を開放する。窓が一つしかない場合は、出入口のドアを開ける。*
会議室など個室の扉は常に開放しておく。

*厚生労働省「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

06-5. Design for Operation

運用・ルールの対策

物理的な対策とともに運用、ルール、制度等の見直しも行うことでより大きな効果が期待できる

オフィスへの出社を抑制

テレワーク、リモートワーク環境を整えて在宅勤務やサテライトオフィスなど自分のオフィス以外での勤務を推奨し、出社人数の分散化をはかる。

シフト制の勤務形態により出社人数の集中を抑制する。フレックス勤務や時差通勤により、通勤時の混雑を避け、感染リスクを低減する。

WEB会議のさらなる利用促進により、出張の移動時や対面での会議による感染リスクを抑制する。

場所の利用者を限定・特定

執務席の場合

座席を事前予約して利用するホテリング運用により、利用者の特定ができる。座席をグループアドレス（グループ単位の利用）の運用により、利用者がある程度限定できる。

会議室の場合

部門やチームによる長期予約利用を可能にして特定のメンバーだけが入室でき、利用する部屋として使用する。

いずれも不特定の人が使わないことにより感染拡大を防止し、万が一の場合にも感染の履歴が特定可能になる。


これらは現在、実現可能なオフィスにおける感染防止対策の一例です。今後、状況に合わせて追加、修正、変更される場合がございます。また、これらの対策について、感染症拡大リスクの軽減効果としての疫学的な保証はなく、当社は一切の責任を負わないこととさせていただきます。



07. Our Commitment

オカムラが発信する新型コロナウイルス感染症・在宅ワーク関連情報

オカムラでは、コロナ禍を乗り越えていくための調査・研究と製品開発に鋭意取り組んでいます。緊急事態宣言が解除され我々がオフィスに段階的にもどる中で、本レポートでは予見されなかった状況や新たな課題が継起することが考えられます。働き方・働く場の専門家集団として我々の発見を随時発信し、皆さんと手を携えてこの難局を乗り切っていきたいと思えます。2020年5月11日現在での我々の調査・研究の結果は下記ウェブサイトでご覧いただけます。

 [オカムラの在宅ワーク](#)

 [オカムラグループが主催するオンラインセミナー](#)

 [緊急特別レポート vol.1「新型コロナウイルス感染症対策としての在宅勤務調査 速報版」](#)

 [緊急特別レポート vol.2「新型コロナウイルス感染症対策としての在宅勤務調査 会議版」](#)

* 情報登録の上ダウンロードが必要です

** 緊急特別レポート vol.3 は5月中に発行予定。アップデートが欲しい方は[こちら](#)へ。

 [慣れない在宅勤務 どんなことが起こっているのか緊急調査 ― 環境、仕事スイッチ編](#)

 [慣れない在宅勤務 どんなことが起こっているのか緊急調査 ― 家族・子ども編](#)

 [慣れない在宅勤務 どんなことが起こっているのか緊急調査 ― コミュニケーションと備え編](#)

* 慣れない在宅勤務 どんなことが起こっているのか緊急調査 ― 会議の変化編 (5月中旬公開予定)

 [今求められる働き方・テレワークやリモートワーク実践へのヒント](#)

08. Upcoming お知らせ

WORK MILL with Forbes JAPAN 特別号 2020

FUTURE IS NOW

異未来の来訪 フューチャーワーク (仮)


突如として分断され変容した現実社会、グローバリズムを中心とした世界のビジネスを取り巻く環境も一気に変わり、想像していなかった異次元の未来がいきなり訪れた 2020 年。現実となったこの異未来の中、ビジネスやクリエイティブの最前線にいる人たちはどのように捉えているのか。WORK MILL がこれまで触れてきた人を中心に分断された現実と未来について、働き方、ビジョン、そしてこの先の姿を問い直す。

インタビュー:

- ・ 星野佳路 (星野リゾート 代表取締役社長)
- ・ レイ・イナモト (I&CO. 代表 / クリエイティブディレクター)
- ・ 田川欣哉 (Takram 代表 / デザインエンジニア)
- ・ クリスター・ヴィンダルリッツシリウス (KAOSPILOT 学長 兼 CEO)
- ・ 野田智義 (大学院大学 至善館 理事長 / NPO 法人 ISL 創設者)
- ・ スティーブン・コー (O'right 創業者 兼 CEO)
- ・ 遠山正道 (スマイルズ 代表取締役社長)
- ・ 橋本正徳 (nulab 代表取締役)
- ・ and more

発刊:

2020年6月末 予定

(5月末ごろに先行して部分PDFのダウンロードを実施予定。アップデートが欲しい方は[こちら](#)  へ。)

Connect with us

随時新しい情報を更新、提供し続けていきます。

 facebook.com/okamura.corp

 twitter.com/okamura_corp

 instagram.com/okamura_shopping

 workmill.jp/form/mailmagazine.html

WORK MILL

projected by

okamura